

医療的ケア支援委員会

部会長 小山 勝章(森と木)

副部会長 西巻 靖和(東長野病院)、小林 祐子(稲荷山医療福祉センター)

執行部 小林 紀子(にじいろキッズらいふ)、大久保 千鶴(こすもけあくらぶ)、
金井 祐樹(ほっとらいふ相談室)

運営委員会担当者 小池 晶代(北部相談支援センター)

ケアマネ連絡会担当者 本藤 (南部発達相談支援センター)

長野市障害福祉課担当者 倉嶋課長補佐、今井 CW

1、年間テーマ

『地域で暮らす医療的ケア児等の課題解決に向けた取り組みを行うとともに、
医療的ケアへの理解を福祉関係者に広める』

2、部会等の開催状況

月	日	会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
7	12	にじいろキッズらいふ	15	令和4年度の執行部体制と活動について	・活動内容についての検討 ・参加者との意見交換
11	22	Zoom	98	医療的ケア啓発活動	『てんかん』研修
1	12	Zoom	11	地域生活における医療的ケア児等の抱える課題の共有、意見交換	医療的ケア児等との関りから見える課題についての意見交換

上記の他、執行部会を5回開催。

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

○福祉施設職員対象の医療的ケア研修会

日時:令和4年11月22日(火) 18:00~19:30

テーマ:『てんかんを持つ方の支援』

講師:福山哲広医師(信州大学医学部附属病院てんかん診療部門)

開催方法:オンライン研修会(Zoom)

参加事業所・者:32事業所、98名(申し込み)

令和4年度 事業報告

○医療的ケア児資源マップ

児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所の医療的ケア児等の受入一覧表(目次)と事業所マップを作成し、こども部会に令和4年度版情報ツウーに掲載依頼

4、課題について

(1)主な検討課題

<地域資源マップWG>

以前から障害福祉サービス事業所の受入先がない、との声が当事者家族より聴かれているが、長野市内のアセスメントおよび地域評価が行われていないため、今年度は市内の障害児通所支援事業の受入調査、および地域マップを作成した。

<看護師研修WG>

障害福祉施設で働く看護師さんから、研修や意見交換の機会がほとんどなく、孤独に業務に従事している、という意見が聞かれている。令和3年度から看護師の施設間研修を予定していたが、コロナ禍においては研修の日程調整から実施が非常に困難であった。

(2)検討の目的と結果(現状)

- 医療的ケア児(者)の受入のある4事業所間で看護師の研修を実施し、各種医療的ケアの実際について情報交換や手技の確認、療育の中での関わり方等、互いに学びあった。参加した看護師から好評であり、今後も事業として継続することで看護師間のネットワークが広がり、質の高い医療的ケアの提供や離職を防ぐ効果が期待される。
- 地域資源マップを作成し、情報ツウーに掲載されたことで、保健所などの関係機関からは窓口で案内しやすくなった、と一定の評価が得られた。

(3)引き続き検討が必要とされる課題

○長野市版医療的ケア児等支援推進会議の開催

長野圏域の医療的ケア児等支援推進会議においては、コロナ禍も影響してか3年間実施されていない。医療的ケア児支援法が施行され、長野市として当会議の開催を検討する必要もでてきているため、準備会の発足を含め検討する。

○養護学校卒業後の進路先の不足

養護学校卒業後の医療的ケア児の進路先の不足については、毎年課題となっている。次年度は通所施設へのアンケート調査を実施し、通所施設ガイドブックへの掲載について協議する予定。

○実数調査と地域アセスメント(地域評価)

長野市内の医療的ケア児の実数調査を提案し、調査結果と資源マップを照らし合わせることで地域アセスメントを行い、提言をまとめる。

令和4年度 事業報告

(4)部会の運営体制について

医療的ケア児等の受入施設から執行部を決めてきたが、令和5年度より執行部の人数を減らすことで、委員会での議論を活発化させていく。

5、総括(1年間を振り返って)

令和4年度は、オミクロン株が猛威を振るい、委員を参集しての会の開催は初回のみとなったが、活動の中身については非常に濃い1年であったと自負している。

地域資源マップワーキングでは、障害児通所支援事業所の医療的ケア児の受入調査から地域ごとに分けた資源マップを作成し、こども部会発行の情報ツウへの掲載につなげることができた。

看護師研修ワーキングでは、令和3年度に予定していた看護師さんの施設間研修の実施や医療的ケアについての啓発事業として、信州大学医学部附属病院てんかん診療部の福山先生に講師を依頼し、福祉施設職員むけにてんかん研修を実施した。32事業所、98名の申し込みがあり、参加者のみなさんに好評をいただいた。

依然、医療的ケア児(者)やその家族を取り巻く様々な課題があるものの、専門部会と課題共有するなかで課題解決に向けた取り組みを行う必要がある。